

北海道の木の外壁

木は環境にやさしい循環型資源の代表である。だから木をたくさん使った家を造ろう。木で出来ることは木で造る。いたってシンプルな発想だ。もちろん近くの山、北海道産の木を使って、家の外装をデザインするのだ。思い切つて、全部木の外壁にしてみてもどうだろう。うわさでは、木はメンテナンスが大変だとか。ところが実は、意外とお金がかからないんだ。



自然塗料で塗装した外観



木酢ウッドの外観

木の外壁は、安全な作業足場と時間さえあつたら誰でも簡単に塗れるのだ。そうすると1回あたりのメンテナンス費用は、とても安くつくはず。注意することは、まずラフ仕上げの外壁用板を探すこと。ラフ仕上げの無垢の木を使うと、表面積が大きくなり、木は呼吸し、水分を放出することが出来るからなのだ。次に安全な天然成分の自然系塗料を探すこと。少し高いけれど、ドイツ製の自然系塗料は安全性も高く、扱いやすいのでセルフビルドにはおすすめだ。究極は何もしないでそのまま使うということ。これはもうヨーロッパでは今や常識なのだ。

僕は、木酢液に漬け込んだ道産のカラマツやトドマツを使う。一晩漬け込むと真っ黒くなるが、経年変化で徐々にうすくなって灰色に変化していくんだ。しばらくは何もせずにメンテナンスフリーでよい。最近はこちらを「木酢ウッド」って呼ぶらしい。

道南スギには、カナダのキコリさんの塗料をよく使う。塗った直後から自然に風化してレトロな風情がしびい仕上げになる。新築なのに近所で一番古い家みたいになるのが不思議。外壁は、僕たちを守ってくれる3番目の皮膚だから、着心地の良い自然素材で暖かく呼吸する木の板壁がよいのだ。

木で出来ることは木で造る訳がある。



自然塗料で塗装した外観

カナダの
ウッドロングエコの外観

北海道の木の家 ①



山へ行こう

北海道の木で家を建てたいな。
胸をはって誇らしげに
この木はこの山の木だと自慢したい。
冬の新月に切った木は狂わない・
腐らないって知ってる？
そんな逸話があるくらい、
良い材料になるんだって。
新月のある日、
皆でトドマツの木を切りにいった。
切った木はこのまま残して帰るんだ。
春になったら迎えに来るよ。
来年この木で
家を建てようと思う。
北海道の木だけで
家を建ててんだ。

※新月の木:秋から冬の4ヶ月間に、水分と養分が少ない新月の時期に切った木を、枝葉を残し切り倒したまま山で葉を枯らし乾燥する。春になったら製材し、乾燥させた木材で家を建てると長持ちする良い家ができるという話があるのです。



新月伐採の立ち会いです。ボランティアを含め 20 名で入山したのです。

キコリさんは伐倒さんと呼ばれていて、斧ではなくチェーンソーを使います。切り倒した木の年輪や太さ長さから、立っていた方位、地形、倒した方向まで一本一本記録します。この日は 60 才前後のトドマツを 52 本切ったのです。山にはヒグマが木登りした爪あとがぐっきり残った木が何本もありました。

エコデザイナー 西條 正幸

1960年伊達市生まれ。札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社「ビオプラス西條デザイン」代表取締役。自然派生活提案「えこすた」店主。

「自然素材デザイナー西條正幸のブログ」もヨロシク!

